

令和8年3月31日

農林水産大臣 鈴木 憲和 殿

珪酸石灰肥料協会
理事長 村樫 太郎

水田の地力増進に関する提言

鈴木農林水産大臣は、本年の年頭所感において「水田政策について、令和九年度に向けて、根本的な見直しを行います。水田を対象として支援してきた現行の水田活用の直接支払交付金を、水田・畑に関わらず、作物ごとの生産性向上等への支援へと転換する」との基本方針を打ち出されました。

各都道府県の農業部門や農業試験場、あるいは全農・JA等の報告書において、土壌分析の結果、各地の水田土壌において特にケイ酸が不足しているという事例が多数報告されている状況に鑑み、当協会としましては、ケイ酸資材の施用による水田の地力の回復・向上が水稻の生産性向上に資する喫緊の課題であると認識いたしております。

つきましては、中長期的に水田の地力を増進し、水稻の生産性向上を図り、もって将来におよぶ食料増産の一助とすべく、以下を提言させていただきます。

記

1. 鉄鋼スラグ肥料の認知度向上

わが国では鉄鋼スラグ肥料は戦後から全国的に活用されてきており、生産者にとっても鉄鋼スラグ肥料は土づくり肥料(土壌改良資材)としてひろく知られております。また、韓国のように「珪酸質肥料供給事業」を国策として実施している国もあるようです。

しかしながら、近年は短期的な収量増加を優先した(ケイ酸成分を含まない)化学肥料の撒布、生産者の減少及び高齢化による撒布作業の忌避、メーカー数減少ならびに設備の老朽化等に起因する鉄鋼スラグ肥料の供給制約等によって鉄鋼スラグ肥料の使用量が低迷しており、その結果、水田の地力低下によるお米の品質・収量が低下するという負のスパイラルが始まっていることが懸念されます。

このような状況下、また、稲体を作る窒素に対し稲体を強くするケイ酸は10倍以上の量が田んぼに必要であると言われている中で、豊富なケイ酸を含む鉄鋼スラグ肥料が国産肥料の一つとして明確に定義付けがなされておらず、わが国農政における位置づけが曖昧であることも鉄鋼スラグ肥料の使用が拡大していかない要因となっているように思えてなりません。

下記のような特性を有する有用な鉄鋼スラグ肥料を、より多くの生産者に広く継続的に活用頂くためにも、また、国産資源で育成された国産米を未来にわたって残していくためにも、農政における鉄鋼スラグ肥料の位置付けを明確にして頂きますようお願い申し上げます。

[参考]鉄鋼スラグ肥料の効果

- ①ケイ酸施用による水稻の光合成促進(倒伏防止、病虫害対策、整粒歩合向上、食味向上他)
- ②ケイ酸施用による高温環境下における水稻の育成サポート
- ③石灰施用による土壌pHの向上・改善
- ④鉄・マンガン施用(転炉スラグの場合)による硫化水素やメタンの発生抑制
- ⑤リンの供給(転炉スラグの場合)

2. 鉄鋼スラグ肥料の使用促進に向けた諸施策の整備

昨今、食料安全保障の観点からも国産資源を用いて狭い面積で高い収量をあげていくことが喫緊の課題となってきております。

鉄鋼スラグ肥料の有用性としましては、①原料となるスラグの発生量が大きいこと、②化成肥料に比してはるかに安価な価格、そして何よりも③水稻の生育に種々の効果がある点等につきまして、改めてご認識頂き、鉄鋼スラグ肥料の流通拡大にむけての諸施策を整備し、生産者にとって最も身近な資材として感じて頂けるような環境を整備頂きますようお願い申し上げます。

また、生産者は毎年の肥料撒布では基肥を優先されるため、鉄鋼スラグ肥料等の土づくり肥料の撒布数量は生産者の手許余裕資金の状態に左右される傾向があるように感じております。生産者が安定的、継続的に土づくりを推進していくためにも、農業収入が安定するような施策の検討につきましても、併せてお願いさせて頂く次第です。

[参考]2022年のわが国における鉄鋼スラグの発生量（出典：鉄鋼スラグ統計月報）

①高炉スラグの生産量	1988.6 万ト
②転炉スラグの生産量	833.5 万ト

[参考]2024年3月時点の鉄鋼スラグ肥料の価格レベル（出典：農水省 農業物価統計調査資料）

①ケイカル(ケイ酸石灰)	925 円/20kg 袋
②高度化成肥料(15-15-15)	4,051 円/20kg 袋

3. 鉄鋼スラグ肥料の撒布促進に向けた諸施策の整備

近年、鉄鋼スラグ肥料の使用量が低迷している理由の一つとして、生産者の高齢化に伴う撒布作業の肉体的、時間的負荷が大きくなってきていることを耳にする機会が増えております。

2月の高市総理の施政方針演説におかれましても「共同利用施設の再編・合理化」が挙げられておりましたが、今後の生産者の高齢化や生産者人口の減少等を踏まえますと、かつてわが国の地方に存在していた肥料の撒布組合的な組織体の活動が可能となりますよう、補助事業等による農作業の下支えにつきましてもご検討頂きたく、よろしくようお願い申し上げます。

以上